

# 震災を財産にするために ～学校と地域の「つながり」を未来へ～

## 岩手県野田村

活動名

野田村学校支援地域本部

関係する学校

野田小学校・野田中学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の笑顔 参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
土曜日の 教育活動							
学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア 登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
	2人	123人	22年度	有	無	無	無
放課後 子供教室	コーディネーター	子供の笑顔 参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティ スクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

平成22年7月に「野田小学校区学校支援地域本部」として小学校のみの活動からスタート。平成24年度には野田中学校も加え、「野田村学校支援地域本部」として、小中学校に各1名コーディネーターを配置。その間、東日本大震災津波により大きな被害を受けたが、地域は「学校は村の光」、学校は「野田村を元気にする」という意識で活動しており、震災後のボランティア登録者数、参加者の延べ人数は年々増加している。

### 特徴

#### 【特徴的な活動内容】

- 調べ学習や読書の推進を図るため、読書ボランティア団体の協力を得て、図書館運営の補助や定期的読み聞かせ活動を実施している。
- 誰でも都合のいい時間に参加できるように毎週木曜日を「ひかりの日」とし、老人クラブ連合会などと連携しながら校庭の草取りや花植えなどの環境整備を行っている。
- 調理実習補助、農作業体験、着付け指導など地域住民と児童・生徒が直接ふれ合う授業支援に力を入れている。
- 日常の登下校指導に加え、非常時の登下校や行事開催中の見守り、交通安全教室の補助等児童生徒の安心安全な環境づくりを行っている。

#### 【実施に当たっての工夫】

- ボランティア活動を「図書」「環境整備」「授業支援」「安全指導」の4つのカテゴリーに分け、地域住民に活動内容を分かりやすく提示している。
- コーディネーターを学校の職員室に配置し、担任から直接依頼を受け、「欲しいときにすぐ」の支援ができる体制にしている。
- ボランティア通信を村内全戸で回覧。また、ボランティア登録者には「口コミでの協力」を依頼し、住民同士のつながりができるようにしている。
- 児童・生徒を含め、多くの人に活動の様子を知ってもらうため、職員玄関前に予定・報告、児童・生徒のボランティア宛の手紙等を掲示している。
- 年2回野田村地域教育協議会で有識者からの外部評価を導入し、事業の改善に生かしている。また、行政、社会福祉協議会、各種団体と協力体制を構築し、学校に過度な負担がかからないように事業を進めている。

### 事業を実施して

- 体験活動の充実や授業におけるよりきめ細やかな指導につながっており、学校の教育活動全般で効果があがっている。特に、地域住民とより多くふれ合うことが「コミュニケーション能力の向上」や「規範意識の醸成」につながっている。また、「本村の被災状況と復興の様子」を伝える住民の生の声自体が学びとなり、防災教育やキャリア教育に生かされている。
- 震災以降も「ボランティア登録者数」「活動したボランティアの延べ人数」「活動実施回数」は年々増加している。「学校や子供たちのためにできることをやりたい」という住民の思いに加え、これまでに培った知識や技術を子供たちのために活用できる場として認知されてきている。
- 住民同士で声を掛け合っ楽しみながら参加するボランティアが増え、アンケート等で「前より学校が身近になった」、「子や孫が学校にいなくても気軽に来られる」といった声があがるなど、住民同士の結びつきを強める役割を果たしている。また、被災者として支援を受けた住民が、「自分も何かしたい」と考え、学校でボランティア活動をしたり、児童・生徒が「地域のために何ができるか」を考えるなど復興の視点でも効果をあげている。

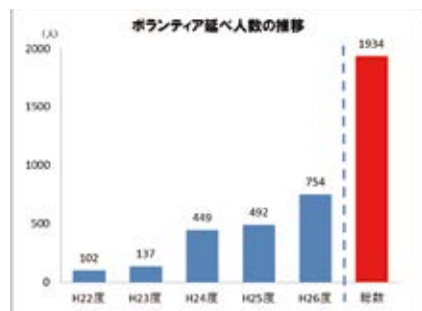


「子供たちとすると自然と笑顔になる」(学習支援)

### その他

#### 【実施に当たっての工夫】

- ボランティア活動を「図書」「環境整備」「授業支援」「安全指導」の4つのカテゴリーに分け、地域住民に活動内容を分かりやすく提示している。
- コーディネーターを学校の職員室に配置し、担任から直接依頼を受け、「欲しいときにすぐ」の支援ができる体制にしている。
- ボランティア通信を村内全戸で回覧。また、ボランティア登録者には「口コミでの協力」を依頼し、住民同士のつながりができるようにしている。
- 児童・生徒を含め、多くの人に活動の様子を知ってもらうため、職員玄関前に予定・報告、児童・生徒のボランティア宛の手紙等を掲示している。
- 年2回野田村地域教育協議会で有識者からの外部評価を導入し、事業の改善に生かしている。また、行政、社会福祉協議会、各種団体と協力体制を構築し、学校に過度な負担がかからないように事業を進めている。



5年間のボランティア総延べ人数は、本村人口の4割以上